

# 業務の新聞

第 17 号 平成 30 年 3 月 9 日

## 『幸せ』になれるか？

3 月ダイヤ改正交渉で、「効率化と働く者の幸せの実現」と言う、相反する課題をクリアするために『労使双方』が真剣に考え論議してきました。出席者から「今までと違った」「考えていた」などの声が聞かれました。

より良い会社・職場を創造するには「片輪走行」では出来ません。職場へのタレ流しのトップダウンは、表面をサッと流れさるだけです。

「幸せ」になるためには、解決すべき課題を明確にし、それを「労使双方」が認識し合い、解決に向けた努力を「労使双方」が行うことが不可欠だと考えます。

## キチンとしましょう！

ソワソワ、ざわざわと落ち着きませんね。何事もキチンとしましょう！

会社経営陣がせっかく職場にいらしたのに“社員の声”も聞くこともなかったそうです。何のためにいらしたのでしょね。普段接することのない会社経営陣と意見を交わせたらずいいですよね。そんな経験をしてみたいものです。「従順な〇」や「上目づかいのヒ〇メ」には有意義な時間だったのでしょね。

勇気を持って否定的な現状を打破し、発足 30 年の足跡を確認し、未来に向け歩を進めることが私たちの課題だと思います。

## 学びましょう！

「破棄だ」「破棄は無効だ」…。という状況までをつくりだしたのでは“疑心暗鬼”という文字通りの会社・職場になってしまいます。社員は何を信じてよいのか分からず、結果、人間関係にも暗いカゲを落とすような職場になります。これではこの会社の明るい未来はありません。右肩下がりに廃れていくのが目に見えます。

繰り返される 36 違反、エルダー社員制度における出向先の未提示や施策などの一方的実施は、会社が社員・労働組合との“約束”を反故にしたものと言わざるを得ません。

すべての社員がこの現実を真摯に受けとめ、職場でキチンと対話することが大切だと思います。社員の幸せの実現も会社経営陣の大きな責務であると考えます。労働組合には会社経営に対する責任があります。ここまで創ってきた私たちの会社の歩みに学ぶ時が来たのではないのでしょうか。

## だいじょうぶですか？

リニア新幹線関係で建設業界が慌ただしくなっています。自動車業界での不正検査やデータ改ざんなどもありました。また『忬度』などという言葉を取りざたされた問題は第 2 ラウンドに入っています。ずいぶん前には不祥事から会社を潰した社長さんが「社員は悪くない」と涙を流し絶叫していました。

“責任者・代表者・経営者”の皆さん「あなたの組織は大丈夫ですか？」

安全・安定輸送の実現、労働条件・労働環境の向上と改善、人材育成・技術継承、耐震補強工事、電架柱の倒壊、絶縁物の不具合、施工工事の不具合、繰り返される 36 違反、スケジュール通りに運用できない施策等々、会社経営や「労働組合運動」には大きな課題が山積しています。

“責任者・代表者・経営者”の皆さん「あなたの組織は大丈夫ですか？」  
あなたが今なすことは何ですか？